

国語（一般選考）

□ 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

うわさを信じてはいけないと考えたくなる研究として、先のオルポートの実験をみてみることにしよう。まず、最初に選ばれた被験者の一人が部屋のスクリーンに映し出された絵を見る。そしてその内容を、絵を見ていない別のメンバーに口頭で伝えるよう指示される。その際には二〇項目の内容を含まなければならぬ。それを聞いたメンバーは、伝えられた内容をできる限り忠実に別のメンバーに伝えていく。このような伝言のやりとりを繰り返していくと、伝えられる内容はどうに変化していくのだろうか。その結果、多くの人によつて伝言が繰り返されると、伝達の過程でうわさが短くなったり、単純化されたり、より平易になつたりする平準化 (leveling) と、伝達する人が事前にもつっている心理状態に合わせて情報内容が変容していく同化 (assimilation) の傾向が現われることがわかつた。平準化に関しては、絵の内容や伝達の状況を変えて実験したところ、五、六人を介するとおよそ七〇パーセントの要素が元々の情報からふるい落とされてしまうことが示された。同化を典型的に表す例としては、先入見への同化が挙げられる。たとえば、電車内を描いた絵の内容を伝える実験では、かみそりをもつているのは白人であるが、黒人がかみそりをもつているという記述が数多く現われた。さらに、そのかみそりで黒人が白人をオドしていると記述されたこともあつた。ここには黒人に対する先入見、予期、恐怖、憎悪など当時の被験者があらかじめもつていたであろうさまざまな心理状態が影響を与えており、見たり聞いたりした情報がその人の心理状態に同化させられている。そしてこのような同化はほとんどの場合、意識的に行われているものではない。それゆえ、情報を歪めていることを本人が気づかないまま、内容が改変されていく。

オルポートの研究は、人によつて伝えられる情報伝達の特徴を改めて浮きぼりにしてくれる。物を媒介する例として少々古めかしいが、録音テープを対比させて考えてみよう。録音テープの場合、ひとつのテープから別のテープに録音しなおすと、ノイズが入つたり、音をヒロいきれなかつたりして、

わずかではあるが元の音声とは異なつたものとなる。そして、その音の差違は録音を繰り返せば繰り返すほど増大し、最初の音とは異なるものとなつていく。人が人に口頭で伝達していく場合も同様に、情報が多くの人を経由すればするほど、人間の記憶力や再現能力の限界ゆえにその正確さが失われる。この点に関していえば〈物〉を媒介とした伝達と〈人〉を媒介とした伝達は似ている。

□ A、大きく異なる点もある。オルポートの実験が示しているのは、人を媒介とする伝達の場合には情報内容を一変させてしまうようなフィルターがかかつてゐるということである。われわれ人間はかかる特定の見方や考え方のもとで情報を受け取るが、それは先入見や感情といった人間固有の性質によって大きな影響を受ける。^{※2}前章では偽なる証言をもたらす、不誠実な発話の動機を検討したが、たとえ誠実に発話されていたとしても、そして記憶力が問題なく發揮されていても、伝えられていく情報が正しさから遠ざかっていく人間の認知メカニズムが存在するのである。このような認知的な歪みは多くの人を経由すればするほどより大きくなり、情報はより不正確になる。したがつて、人々の口から口へと伝えられるうわさは、やはりあてにならない、信じてはいけないと言いたくなる。しかし、本当にそうだろうか。

うわさを信じてもよいと考えたくなる議論の代表として、哲学者のコーディの議論を紹介してみたい。彼は『いま何を信じるべきか——現代的問題への認識論の応用』のなかで、「うわさを信じてはいけない」という一見、常識とも思われる見解に反論している。コーディによれば、オルポートが行つた実験室での状況とわれわれがうわさを聞く実際の状況は異なつており、実験の帰結をそのまま日常生活にあてはめることはできない。そこで強調されるのは、実際の状況では聞き手がそのうわさの正しさについて判断できる^②である。

第一の違いは、事前知識の有無である。オルポートの実験では、絵を見ることがあるのは最初の一

人だけであった。それゆえ、その後に伝達する人にとつては、自分に伝えられた情報がすべてであった。それに対して、通常われわれが耳にするうわさはまったく未知のものではない。少なくとも話題になつてゐる事柄について、事前知識をある程度もつている。

たとえば、ある人についてのうわさが聞こえてきたとする。その場合、その人について普通は何かを知つているだろう。まったく知らない人物は、そもそもうわさの対象にならないだろうからである。したがつて、事前知識をもとに、その人物に関するうわさが真実でありうるか、あるとしたらどの程度ありうるのか等々をある程度は判断できる。同様に、ある地域で事件や事故が起つたといううわさがあつた場合でも、その地域についての事前知識や常識をもとに、どのくらいありえそうかを判断することは可能であろう。まずはこの点が、通常のうわさとオルポートの実験との違いとなつてゐる。

第二の違いは、うわさを伝え合う人間同士の関係性である。オルポートの実験では、見知らぬ人たち同士がそのためだけに集められていた。それに対し日常的なうわさの場合は、お互によく知つてゐる人同士の個人的な関係性を通じて広まっていくことが多い。それゆえ、その人が正直な人か、いい加減な人か、おっちょこちょいな人か、思い込みがハゲしい人か……、人となりは事前にわかっているから、この事前知識をもとに、うわさが信頼できるかどうかを評価することができる。ここで、「誰から」には、直接自分に情報を伝えた人だけでなく、うわさの情報源となつた人も含まれ、もしも情報源がわかる場合には、その人物についての知識をもとにうわさを信頼してよいか考えることもできる。

第三の違いは、うわさの伝え方である。オルポートの実験では、聞いたことをできるだけ忠実に再現することが求められており、すべての被験者が断定表現で情報を伝えていた。それに対して、通常のうわさの場合には、その情報を伝える際に情報の確証度を表す言葉が付け加えられることが多い。たとえば、冒頭で紹介した豊川信金事件でいえば、うわさの初期段階では「あの信用金庫は危ないらしい」と、「らしい」という推量を表す表現がつけられていた。しかしそのうわさが伝わっていく過程でこの表現がとれて、

最後には「危ない」という断定調になつて伝わり、人々のコンラン^jを招くことになつた。このような断定をサける表現としては、「らしい」以外にも「本當かどうかはわからないけど」「あくまでも聞いた話だけ」等々の表現が挙げられる。

われわれはこれらの表現をもとに、その情報がどの程度確からしいのかを判断することができる。たとえば、「本當かどうかはわからないけど」という言葉とともに伝えられた情報は、断定調で伝えられた情報に比べて、確からしさを割り引いて受け入れるべきものとなるだろう。もちろん、ここでの確証度は伝え手がその情報をどう判断しているのかを示すものにすぎず、それが実際の確からしさと一致しているとは限らない。しかしそれでも現実のうわさに関しては、聞き手がこれらの表現の違いを手がかりとして、その情報をどの程度真剣に受け取るべきかを判断することはできる。

第四の違いは、おそらくもつとも重要なポイントとなる。オルポートの実験では、その絵を直接見た人物、すなわち情報源となる人物は一人しかおらず、聞き手にとつては、その人から伝えられる情報ルート以外に情報を得るルートが存在していなかつた。それゆえ、その情報の正しさを自分が伝えられた情報以外の何かに訴えて確かめることはできなかつた。それに対して実際のうわさの場合には、異なる情報源にあたつてそのII^kを確認できる。そして、複数の情報源にあたつて同じ情報が確認できれば、うわさの信頼性は高まるし、そうでなければそれはうわさの域を出ないことになる。^lしかしここで気をつけなければいけないのは、これは単に複数の情報ではなく、複数の情報源にあたつた場合にいえることだという点である。

(山田圭一『フェイクニュースを哲学する——何を信じるべきか』による。)

*①先の……筆者はこの前の部分で、オールポートの実験について述べている。

*②前章……引用部分の前の章を指す。

*③前章……引用部分の前の章を指す。

*④冒頭で紹介した……引用部分の章の冒頭で、

豊川信用金庫に関して起きた事件について触れている。

問一 線部 a～j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 □A と □B に入る接続詞として適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ つまり ウ やがて エ まさに オ しかし

問三 □I と □II に入る語句として適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 信頼性 イ 関係性 ウ 再現性 エ 可能性 オ 人間性

問四 線部①「伝えられる内容はどのように変化していくのだろうか」とあるが、実験の結果、どのような変化が見られましたか。次の a～c について、その変化の説明として適切なものには「○」を、誤っているものには「×」を書きなさい。

- a 二〇項目の内容を五、六人を介してある情報を伝達するようにした場合、約七〇パーセントの人は正しい内容が伝わらないという「平準化」の傾向が見られた。
- b 被験者があらかじめもつていたであろうさまざまな心理状態が影響を与え、スクリーンに映し出された絵とは異なる内容に変化する「同化」の傾向が見られた。
- c 録音テープを用いて録音を繰り返す場合と、人が口頭で他者に伝達していく場合とを比較すると、その両者に差違を見出すことは難しいことが明らかになった。

問五 線部②「第一の違いは、事前知識の有無である。」についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 伝達する側の人が、伝えられる側の人に関する知識を実験する前にもつているかどうかということ。
- イ 伝達内容を知っているのは最初の一人だけで、伝えられる人は伝達内容について何も知らないこと。
- ウ 伝達内容がどのようなものであれ、伝えられる側の人たちが伝える人物について何も知らないこと。
- エ 語られた内容を忠実に伝えることなど、実験の方法が被験者に伝えられているかどうかということ。

問六 線部「哲学者のコーディの議論」についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人を介するほど情報は変化するということを実証的に証明しているオルポートの実験を全面的に否定している。人を媒介とする情報の伝達は、情報を伝える人の知識や伝達方法の巧みさによって精度が高まっていくものであることなどを理由として挙げている。

イ 「うわさを信じることは危うい」ことを証明しているオルポートの実験に不足している観点を挙げて批判している。オルポートが設定した状況と日常的な情報伝達の相違点に注目し、日常の情報伝達の過程には、信頼性を高める要素があることを指摘している。

ウ オルポートの実験の設定に対して、現実との比較から批判している。この実験が行われた時代とは異なり、現在は情報を伝える場合に先入見などの影響を受けることはなくなつており、むしろ伝達者によつて情報の確からしさが高められることを根拠としている。

エ オルポートの実験の被験者が見知らぬ者同士であることが、通常の情報伝達と異なることに異議を唱えている。見知らぬ者同士の間で情報が伝達される場面は現実の社会には想定できないものであり、こうした非現実的な設定に基づく判断は誤りであるとしている。

問七 線部③「これは単に複数の情報ではなく、複数の情報源にあたつた場合にいえる」とはどういうことか。具体的な例を挙げて簡潔に説明しなさい。

〔二〕次の文章は、ある会社の管理職と若手が参加する「ブレインストーミング」の場面を描いている。〈デコピング〉などの呼び名は、参加者が自分で付けたニックネームである。これを読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

① ワンオンワンの頻度^aを上げるのもいいかもしれないせんね。定期的なケアがあれば、思いつめる前に相談できるんじゃないでしょうか」

ワンオンワンは、部下と上司の一対一の対話会議だ。面談、というような堅苦しいものではなく、そこそこざつくばらんに日頃の仕事の悩みを打ち明けてもらう場だ。そもそもんオンラインで行われてはいたけれど、話してもらつてこちらがはじめて気づかされることもあり、意義のあるものだと感じていた。しかし、

「ワンオンワンかあ」

眼鏡がシブい顔をする。

「あれって時間が取られるばっかで大変なんだよね」眼鏡に気を遣う立場にいるのだろうか、白髪の〈デコピン〉も賛同の意を表明するために大袈裟に領^bき、「話しているうちに、最終的には部署の誰かの悪口になるんですよね。部下の陰口を聞いているってのも気分がいいもんじやないですかねえ」

と、いきなり倫理^①的なことに集約しようとする。けれど、上司に折り合いの悪い人間のことを訴えることで、多少なりともガス抜きになるのなら、それも無意味ではないのではないか。

実那子はふと、中学校の担任の言葉を思い出した。

担任と生徒との進路面談、思えばあれもワンオンワンのようなものだった。

「何か学校生活で困ったことはないか？」

人気のあった先生でもなかつたし、実那子も特に信頼を寄せていたわけでもない。けれども何もありません、と言つてしまふのも惜しいような気になつて、少し気がかりだつた友人関係のことを話した。

当時、実那子はふたりの仲の良い友人がいて、学校内では常に三人で行動していた。その年頃の子どもにありがちな、どこに行くにも一緒、という三人組だった。

「彼女たちといると、たまに孤独を感じたりするんですね」

悩みといふほどのことではなかつたけれど、担任は真面目に話を聞いてくれた。三人組とはいえ、仲の良さにビミョウな温度差があつた。濃度、というほうが近いだろうか。実那子以外のふたりはその濃密さが強く、つまりよりふたりは仲がよかつたのだ。だから三人で行動していても、どことなく自分だけがおまけの人

ように感じることがあった。それを「孤独」と表現したことで、急に自分が大人びて感じたりもした。

「三、っていうのは難しいものなんだ」

担任は割り切れない数字により、どうしても余りやはみ出しが出ることを、数学教師らしく話して聞かせてくれたあと、

「でも、三つの辺があることで、バランスが取れることがあるんだ」

と、世の中には三本脚の椅子があり、それは見た目もバランスも美しく、安定しているのだ、と教えてくれた。

実那子は、心から納得したわけではない。思い出しても、中学生には難解な表現だったのではないか、と思う。だとしても、大人が真面目に自分の話を聞いてくれ、理論的に説いてくれたことで、一人前だと認められたような気がした。それが実那子の心を強くし、それ以降、友人三人での行動が苦にならなくなつた。目上の者に納得してもらつたり、大きな手を差し伸べてほしいわけではない。ただ、近くでちゃんと見ていますから、安心して、とそれが伝わればいいのではないか。それは学校の教師と生徒や、親と子だけではなく、社会に於いても同じことだ。

それをまだ社会に出て間もない新人たちに、どうすれば伝えられるのだろうか、答えが欲しいわけでもなかつたが、
「安心感を持たせることが一番ですよね。いつでも相談に乗れるヨユウを我々が持つ……」

とふと漏らすと、
「確かに要件以外のことまで聞いたら申し訳ないな、つて気にはなるんです。上司も忙しそうだと勝手に判断^②しちやつて」

と実那子の言葉を、若手の「youth」が受けた。「仕事以外の場所でのコミュニケーションが大事つてことになりますね」

「ミエちゃん」が明るく言う。

「若者は嫌がるけど、やっぱり飲みニケーションつて案外有効だつたんですよ」

今更ですが、と白髪頭を搔きながら〈デコピン〉が笑つた。

「こいつ何言つてるんだ？」実那子は首を真横に向か^はけ、〈デコピン〉の顔を食い入るように見た。それこそその広がつた額に親指と人差し指で弾いてやりた

くもなる。しかも白髪のせいで老けた印象を持つて
いたが、こうしてよく見ると、実那子と同世代のよ
うだ。

実那子はいまの時代にまだこんな考えの同世代が
いることが恐ろしくなり、若者の働きかた云々より
も、彼らには学ぶべきものがあるのではないか、と
薄ら寒くなる。追い討ちをかけるかのように、眼鏡
が訳知り顔になる。

「僕たちの若い頃には、社内サークルがあつたんだ
よ。バレーとか草野球とか」

もちろん文化系の将棋や映画鑑賞なんもあるか
ら、体を動かすのが苦手な連中は、そういうのを選
んでいたな、と懐かしそうに目を細めた。

「社内のメンバーで、ですか？」

「そう。家族参加の運動会もあつたな」

「y o u」が目をしばたかせる。彼ら若い世代に
とっては信じられないことだろう。まるで古代イセ
キから恐竜の化石でも発掘したような驚きの表情を
素直に顔に出していた。

「奥さんが弁当を作ってくれてさ、それを見ると独
身者も、早く家庭を持ちたいなあって気になつたも
んだよ。そういうのがないから少子化が進むんだ」
と馬鹿げた持論をひけらかすと、

②「なるほど」

太鼓持ちの〈デコピン〉がすかさず合いの手を入れた。

「いや、でもさすがにそういう時代ではないですか
らね。それに結婚だ未婚だ、ってそれこそアンコン
シヤス・バイアスですよ」

若い「y o u」はあまりに未知な旧石器時代かど
こかに迷い込んでしまい言葉を失ったのか、発言者
を交互に見るから、頭だけが左右に機械的に動いて
いた。そんな若い世代に恥ずべきで、何が彼らの働き
やすさだ、と議論が全く正反対のほうに向かつて
いくのを、実那子は必死に食い止めようとする。

「うちの社は誰もが働きやすいカンキョウを、とい
うのがモットーですから、やはりアンコンシヤス・
バイアスやジェンダー・バイアスには気をつけない
とつけませんよ」

すると今度は〈デコピン〉が、

「だから女性の管理職登用が多いんじゃないですか。
ミナコさんだって、その年で管理職なんて、他の会
社じやありえませんよ。それでぶーぶー言われても」
ぶーぶーって、と実那子はカチンとする。

「まあまあ、穏便に」
と、「y o u」は石器時代から令和に戻ってきたの

か、いきなり仲裁に入ってきた。

「うちは実は妻も同じ会社で、仕事と家事の両立つ
てなかなか大変だなって見ていて思いますよ」

「え、君、奥さんいるの？」

眼鏡の声が裏返る。かなり失礼な台詞だが、若い
のに、しつかりしてるんだねえ、と続ける。若くし

て結婚しているだけで、しつかりしている、か。

それが評価基準なら、眼鏡にとつて実那子は、い
い年して結婚もせず子どももないのに、肩書きだけ
は一丁前の口うるさいやつ以外の何ものでもなか
ろう。

実那子がここで反論したところで、世間知らずの
戯言だとあしらわれるだけだ、と口を開ざす。そん
な実那子にちらつと目配せした「ミエちゃん」が、

「そりや仕事と家事をひとりでやつたら大変に決ま
つてるじゃない。それをふたりで分担してやってこそ、夫婦なんじやないの？ 大変そうだなって見て
いるだけって」

と憤った。淡々とした口調だけに、余計それは心

に迫るものがあった。怖気付いたのか、怖気付いたのか、

「いや、もちろん僕だって手伝っていますよ。ゴミ
出しとか風呂の掃除とか」

と「y o u」が慌てて弁解したが、それが一層、
彼女の気持ちを昂らせた。

「手伝うって。その感覺どうにかならないのかしら
ね。だいたい……」

大きいため息をついて「ミエちゃん」が続けよう
とすると、

「それってパワハラになりませんか？」さつきから
ジェンダーとかって女性の権利を振り翳してらつし
やいますけれど、お互いさまって思えてならないん
ですよね」

「y o u」が涼しい顔を見せると、白髪頭がふふん、
と笑つた。

「そろそろ各テーブルで、意見をまとめてください」
司会に立った社員の号令が会場内に響く。

「じゃあ、五番テーブルの結論は、サークル活動の
復活を検討つてこといいですかね」

〈デコピン〉が我々ではなく、眼鏡にだけ確認を取
り、眼鏡が上司承認のごとく頷いた。実那子は呆氣
に取られ、口を開くことすら忘れていた。けれども
これが現実なのだ。

（標野凪『いつだって喫茶ドーナーでひとやすみ。』
による。）

問一 線部 a～j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 ～線部①～③は、ここではどのような意味を表していますか。後のア～エから、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 倫理

- ア 自分だけで判断するための方策
ウ 法律を根拠に他人を裁く方法

- イ 考えや議論を進める道筋
エ 人として守り行うべき道

② 太鼓持ち

- ア 他者の気持ちをうまく高めてくれる人
ウ 周囲の状況を気にせずに振る舞う人

- イ 人の機嫌を取つて好かれようとする人
エ 人の先頭に立つて教え導いていく人

③ 呆気に取られ

- ア 心から悲嘆すること
ウ ひどく動搖すること

- イ 強く感動すること
エ 驚きあきれること

問三 ～線部①「確かに」、②「申し訳ない」、③「判断し」の品詞は何ですか。次のア～エの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 名詞
イ 形容詞
ウ 形容動詞
エ 動詞

問四

——線部①「ワンオンワン」についての参加者の考え方を説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ワンオンワン」は上司と部下の意思疎通をはかることのできる場として全員が肯定的に捉えている。
イ 「実那子」は「ワンオンワン」を部下が安心感を持つことにつながる場として肯定的に捉えている。
ウ 「眼鏡」と『デコピン』の二人だけは時間が取られてしまう「ワンオンワン」を否定的に捉えている。
エ 『ミエちゃん』は「ワンオンワン」のような発想そのものを無意味なものとして否定的に捉えている。

問五 — 線部②「中学校の担任の言葉を思い出した」のはどうしてですか。その理由についての説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が特に信頼を寄せてもらひなかつた先生から「何か学校生活で困つたことはないか?」という言葉をかけられた経験だが、目上の者から大きな手を差し伸べられたものだつたことを悟つたから。
イ 「何か学校生活で困つたことはないか?」と問い合わせ、「三、つていうのは難しいものなんだ」と数学教師らしい話をしてくれた先生との進路相談の時の雰囲気が、その場のものと同じだと感じたから。
ウ 中学生の「実那子」の悩みに対する「三つの辺があることで、バランスが取れることもあるんだ」という担任の言葉が、難解であるものの自分の心を強くする意味あるものだつたと感じたから。
エ 社会に出て間もない新人たちに「安心して」と伝える際の参考として、中学生の時の担任が語つた「三、つていうのは難しいものなんだ」のようなたとえ話を用いることが効果的なのだと悟つたから。

問六 — 線部③「懐かしそうに目を細めた」という反応には、「眼鏡」のどのような気持ちが表れていましたか。

この時の「眼鏡」の気持ちについての説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が若い頃に過ごした会社内の人間関係が今の時代に合つてゐるのかどうかに思い及ぶこともありますか。
イ 「飲みニケーション」のような人間関係の在り方だと思い、そうした時代が間違いなく良かつたと思つてゐる。
ウ 社内の若い世代にはもう通用しないことは分かっているものの、会社内にいろいろなサークルがあり互いに懇親をたつぶり深めることできた時代の良さを何とか伝えなければと焦りを感じている。
エ 若い頃の「サークル」活動などの社内のコミュニケーションの在り方を思い出して、こうした文化の在り方を分かつてもらうよう、自分こそが若い世代に伝えなければならないと責任を感じている。

問七 — 線部「これが現実だ」とはどういうことですか。この場面で「実那子」が感じている「現実」について、簡潔に説明しなさい。

〔三〕次の①～⑤までの空欄に、――線部の言葉がカツコの中の意味になるよう、漢字一字を入れて慣用的な表現を完成しなさい。

① 彼の言葉は、歯に（ ）を着せない厳しさがある。 [思ったことをすげすげと言うこと]

② （ ）頭に迷うことになるだろうと言った。

〔生活の手段がなくなり途方にくれること〕

③ ピアノ演奏にすこさに（ ）を巻いた。

〔驚きや関心で言葉を失うこと〕

④ 大きな会場は（ ）を打つたようだった。

〔多数の人が静まりかえっていること〕

⑤ 改革の（ ）が熟するのをじっくり待つ。

〔物事がよい状態になること〕

〔四〕

次の①から⑤の一線部の敬語が、適切な敬語の表現である場合は「〇」を、適切でない場合は適切な敬語の表現に直して、それぞれ解答欄に書きなさい。

① 私が書いた書道の作品を拝見してください。

② 先ほど私が申し上げたとおりに作業を進めてください。

③ 授業を参観するためにたくさんの先生方が学校に参りました。

④ 詳細については私から連絡になります。

⑤ （自分の会社で説明会をする場合）新商品についての説明会は貴社にて行います。

次の①～⑤の故事成語の意味として適切なものを、後のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 杞憂 きゆう

杞憂

② 馬耳東風 ばじとうふう

馬耳東風

③ 杜撰 づせん

杜撰

④ 烏合の衆 うごうのしゆう

烏合の衆

⑤ 四面楚歌 よんめんしょか

四面楚歌

- ア 人の意見を全く気にかけず聞き流すこと。
イ 自分の周りが全て敵であること。
ウ 物事がおおざつぱで粗末なこと。
エ 非常に親しい友達関係のこと。
オ 取り越し苦労、無用の心配のこと。
カ 規律のない群衆のこと。

令和七年度生
選考試驗
解答用紙
(一般選考)

国語

解答用紙

番号	受験
氏名	

*

五

四

三

二

一

①

②

③

④

⑤

④

②

③

①

②

③

④

⑤

問七	問四	問二	問一
		① f a	
		② g b	い
		③ h c	
		問三 ① に	
		i d	
		② j e	
		③ つた	けた

問七	問四	問二	問一
	a A	f a	
	b B	い まな	
		g b	
	c 問三 I	h c	
	問五 II	し い	
	i d		
	問六	j e	け し て る

*

*

*

*

*

*

令和七年度生 選考試験 解答用紙
国語（一般選考）

解答例

番号	受験
氏名	

五	
①	オ
②	ア
③	ウ
④	カ
⑤	イ

四	
④	①
(例) ご連絡いたします	(例) ご覧ください
⑤	②
(例) 弊社	○
③	(例) いらっしゃいました

三	
①	衣
②	路
③	舌
④	水
⑤	機

問七	問四	問二	問一
問七	イ	①	f
		エ	ひんど
		②	g
	ウ	イ	b
		③	環境
	ウ	エ	渋い
		h	c
	ア	間三	微妙
		①	おんびんに
	ア	ウ	d
		②	ちゅうさい
	イ	イ	余裕
		j	e
	エ	いまおつた	ふけた

(例) 若い世代のためのことを考えている場面でも、若い人たちや女性が意見を述べても、それをしつかり踏まえて検討されることもなく、上司などの年上で男性たちの意見がそのまま通ってしまうような状況のこと。

二	

問七	問四	問二	問一
問七	a	A	f
	×	オ	拾い
	b	B	まな
	○	イ	ばいかい
	c	問三	へいい
	×	I	h
	間五	工	激しい
	イ	II	i
	ア		d
	間六		混乱
	イ		てんけい
		j	e
		避ける	脅して

--

--

--

--

--

--